

寝屋川市産業振興に関する連絡調整会議 議事録（要旨）

会員 13 名中 13 名参加

【日 時】 令和 5 年 10 月 24 日(火)午後 2 時 00 分ごろ～午後 3 時 30 分ごろ

【場 所】 寝屋川市役所議会棟 4 階 第Ⅰ・Ⅱ会議室

【配布資料】・第 16 回寝屋川市産業振興に関する連絡調整会議 次第

- ・寝屋川市産業振興に関する連絡調整会議 会員名簿
- ・第 16 回寝屋川市産業振興に関する連絡調整会議 席次表
- ・寝屋川市産業振興に関する連絡調整会議 資料

【出席者】

第 1 号会員 公募市民 前田 寛 氏

第 2 号会員 寝屋川市商業団体連合会 岩根 浩仁 氏

寝屋川市商業団体連合会 米田 秀樹 氏

寝屋川市工業会 尾崎 教仁 氏

寝屋川市農業委員会 金谷 伸太郎 氏

寝屋川市農政推進協議会 玉川 好裕 氏

第 3 号会員 北大阪商工会議所寝屋川支所 榎並 佑亮 氏

第 4 号会員 大阪電気通信大学 伊藤 義道 氏

摂南大学 尾山 廣 氏

大阪公立大学工業高等専門学校 中田 裕一 氏

大阪国際大学・大阪国際大学短期大学部 富加見 隆 氏

第 5 号会員 寝屋川市消費者協会 森田 順子 氏

会 長 市まちづくり推進部部長兼産業振興室長 山口 美加

市 事 務 局 川原課長、近成課長、津川係長、元村係長、前田、濱本

【傍聴者】

3 名

【要 旨】

1 会議の公開・非公開

- ・会議の公開・非公開について諮り、原則どおり公開とすることを決定した。

2 会員様から御提供いただいた案件

(1) リカレント教育の需要

【説明・趣旨】

- ・伊藤会員から「リカレント教育の需要」について案件の提供があり、伊藤会員及び事務局から説明の上、意見交換が行われた。
- ・国は、デジタル等成長分野に関する能力を身につけた即戦力人材を社会に輩出するため、大学等に対し、産業界や社会のニーズを満たすプログラム開発・実施・横展開に向けた支援を行うとともに、併せて、大学におけるリカレント教育事業を定着発展させるため、ニーズ把握からプログラム開発を一体的に実施する体制整備を支援する取組を進めている。
- ・大阪電気通信大学及び摂南大学においても、令和4年度「成長分野における即戦力人材輩出に向けたリカレント教育推進事業（国事業）」へ申請を行い、採択された。
- ・大阪電気通信大学において、電気回路に関する内容について、学び直しをしたいとの依頼を受け、勉強会を実施したが、産業界においては、リカレント教育についてどのような需要があるのかお伺いしたい。

【質問・意見】

▶質問1

（ 質 問 ） 事業者等から教育を受けたいとの相談を受けるなど、事業者等の需要について、市で把握していることはあるか。また、リカレント教育に関する取組について、市で実施していることはあるか。

➡（ 回 答 ） 事業者等からリカレント教育に関する要望、意見等は受けてはいないが、創業の機運が高まる中、今後、その視点は必要となってくるものと認識しており、引き続き事業者等から意見をお伺いしながら、検討していく。

▶質問2

（ 質 問 ） 受講回数（時間）や受講料については、どのような設定となっているのか。また、受講時間は夜間帯が中心となるのか。

➡（ 回 答 ） 国に採択された今回のプログラムにおいては、ある程度の

時間、費用を要するものとなっている。また、日中にお勤めの方もいらっしゃるのでは、夜間帯や休日の受講を想定している。

▶質問 3

（ 質 問 ） 農業協同組合においては、従業員の知識向上やスキルアップ等を図るため、一般社団法人 全国農協観光協会が実施する「日本農業検定」や、一般社団法人 日本土壌協会が実施する「土壌医検定」の受験を進めている。大学等が実施するリカレント教育において、農業に関連するものはあるのか。

➡（ 回 答 ） デジタルと農業に関連したプログラムを実施する教育機関もあるが、農業分野において、どのようなスキルアップを望んでいるのか、どのようなことに困っているのかなど、今後、意見、情報をいただきたい。

▶質問 4

（ 質 問 ） 自分のやりたいことが明確でない方が、やりたいことを探すことや、自分のやりたい事業を始める中で、経理やチラシ、動画を作成する必要があったが、それらの知識、技能を学ぶことは、リカレント教育の範囲となるのか。

➡（ 回 答 ） 大学には、教育と研究の二つの機能があり、大学における教育とは、最終的なプロダクトを提供することではなく、学ぶ方に知識や情報を与え、成長を促すことが役割であると考えている。個々の事例に対する解決策を提供することは、難しいかもしれないが、リカレント教育が進んでいく中で、現場の状況に即したプログラムも出てくるのではないかと。

▶意見 1

- ・ 今回、摂南大学が実施するプログラムにおいて、定員を超える応募が寄せられていることから、学び直したいとの需要があるものと理解している。

(2) 精神疲労・身体疲労の判定管理システム

【説明・趣旨】

- ・ 尾崎会員から「精神疲労・身体疲労の判定管理システム」について、説明

が行われた。

- ・「精神疲労・身体疲労の判定管理システム（A Qフリッカーテスター）」は有限会社サイバークラフトと摂南大学との産学連携により、開発されたもので、疲労すると下がる「フリッカー値」により、精神・肉体の疲れ（ストレス）を測定することができる。
- ・短時間で測定することが可能で、大規模事業所や運送会社、病院、大学等で利用していただいている。
- ・市広報誌にも掲載され、市立産業振興センターにおいて展示の上、市民の方などにも利用いただいた。

【質問・意見】

▶質問 1

（ 質 問 ） 疲労を数値化し、自分の疲労度を知ることができるため、過労死の防止にもつながるものと思うが、市販はされているのか。また、値段はおいくらか。

➡（ 回 答 ） 市販もしており、希望される方に購入いただける。価格については、資材や人件費等の高騰の影響により、今後、値上げする予定である。

3 令和5年度主な事業

(1) 寝屋川わくわく商品券事業

【説明・趣旨】

- ・寝屋川わくわく商品券事業について、商品券の発行内容や販売方法等の事業内容の説明を行った。

【質問・意見】

▶質問 1

（ 質 問 ） 普段からスマホ決済を利用し、財布を持たない学生もいる。また、商品券の販売等の際に購入者の属性を入力していただくことで、データの集計や分析が可能である。商品券のデジタル化について、どのようにお考えか。

➡（ 回 答 ） わくわく商品券事業については、商業団体連合会が主催で、

寝屋川市の支援を受け、実施されている事業で、商品券の媒体については、スマートフォンをお持ちでない方や操作に不慣れな方もおり、紙媒体の商品券に対する要望も多くいただいている。幅広い市民の方の要望を調整する中で、商品券のデジタル化は今後の検討課題であると認識している。

- ➡（ 回 答 ） スマートフォンを持っていたとしても、LINEをされない方もいる。LINEアプリを活用した事前予約販売において、申込操作のサポートを実施したが、現状を踏まえると、商品券のデジタル化には、時間を要するものと考えられる。

▶質問 2

（ 質 問 ） 過疎の問題を考えると、若者の流出を防ぐ必要がある。若者にとっては、デジタル化を進めていくことが必須ではないか。

- ➡（ 回 答 ） 日本人の貨幣に対する信頼は依然として根強い。また、若者が寝屋川市内であまり買物をしない一方で、わくわく商品券の主な購買層は、60歳代～70歳代以上の高齢層となっており、紙媒体による商品券の販売やデジタルを用いない申込方法を望む声も多数寄せられている。

▶質問 3

（ 質 問 ） 若者に商品券事業が浸透していないのではないかと。若い世代への事業の浸透も課題の一つではないか。

- ➡（ 回 答 ） 現行においては、市広報誌やホームページへの掲載、市内事業所でのポスターの掲示等により情報発信を実施している。YouTubeやテレビCMでの発信は行っていないが、商品券に魅力を感じている若者は少ないのではないかと。

▶意見 1

- ・商品券に魅力を感じているのは、主婦であると思う。また、高齢者が使用するスマートフォンの主な機能は電話の発信・受信で、幅広い機能を使いこなすことは困難である。

▶意見 2

- ・商品券事業について、主婦や高齢層が現行の商品券の恩恵を享受しているのであれば、デジタル化はせず、現状を維持し、その一方で、若者が寝屋川市内で買物をしたくなるような施策を別途、実施すれば良いのではないか。

▶意見 3

- ・20 歳代～30 歳代の方にとって、市のホームページやInstagramは、見づらく、分かりにくいため、市が情報を発信しても、若年層には届いていないのではないか。

(2) ねやがわパーク事業

【説明・趣旨】

- ・令和 5 年 10 月に開催の「ねやがわパーク事業（月見とランタンの夕べ）」について、開催内容等の説明を行った。

(3) 創業及び商店街等出店への支援

【説明・趣旨】

- ・創業及び商店街等出店への支援について、市内創業ニーズの高まりを踏まえるとともに、よりニーズに即した支援制度とするため、「創業・商店街等出店応援事業補助金」を創設したことや、補助金の対象経費、補助限度額等の補助内容の説明を行った。

(4) 第 41 回寝屋川市農業まつりの開催

【説明・趣旨】

- ・第 41 回寝屋川市農業まつりについて、概要・目的、開催内容等の事業内容の説明を行った。

4 その他

(1) 寝屋川市工業会会報

【説明・趣旨】

- ・尾崎会員から「寝屋川市工業会会報」について、説明が行われた。
- ・今回、数年ぶりに工業会の会報を発行し、新たにできたサークルの活動に関する記事等を掲載している。周りに興味のあるお知り合いの方がいらっしゃれば、寝屋川市工業会を紹介していただきたい。

(2) マルシェの開催

【説明・趣旨】

- ・前田会員から「マルシェの開催」について、説明が行われた。
- ・毎月第3日曜日に門真市にあるチャレンジショップにて、マルシェ「酒屋 de マルシェ」を開催している。
- ・「夢を実現するちいさなマルシェ」と題し、創業希望の方が、夢の実現に向け、自分に足りないことを学ぶ場というコンセプトでマルシェの企画・運営を行っている。
- ・今後、夢に向かってチャレンジする方が、事業にトライする場、チャンスを得られる場を萱島につくりたいと考えている。

(3) 時流に沿った産業振興に関するセミナーの開催

【説明・趣旨】

- ・榎並会員から第15回連絡調整会議において取り上げた「時流に沿った産業振興に関するセミナーの開催」に関して、その後の進捗について、説明が行われた。
- ・北大阪商工会議所、枚方信用金庫、寝屋川市の地域産業の振興等に係る連携協定の枠組みをいかして、今年度、4回の「時流に沿った産業振興に関するセミナー」を開催することとしている。
- ・市内事業者等から相談、要望があれば、北大阪商工会議所まで連絡をいただきたい。

(4) 万博に関する活動への学生の参画

【説明・趣旨】

- ・富加見会員から「万博に関する活動への学生の参画」について、説明が行われた。
- ・万博の開催を控え、学生が参画できる万博を視野に入れた活動やイベント等があれば、情報を共有・提供していただきたい。

5 今後のスケジュール

- ・今後のスケジュールについては、事前に日程や案件の調整をさせていただく。